

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 2 日現在

機関番号：12102

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2015

課題番号：24730146

研究課題名(和文) 第一次世界大戦期における「日露兵器同盟」の実像

研究課題名(英文) Russo-Japanese 'Arms Alliance' during the First World War

研究代表者

パールィシェフ エドワルド (BARYSHEV, Eduard)

筑波大学・図書館情報メディア系・助教

研究者番号：00581125

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の結果、第一次世界大戦期の日露軍事協力の様子と内実を日露英米諸国の膨大な資料に基づいて解明し、同時代の国際政治・経済の特色に光を当て、軍事的なファクターが対外政策や国際政治に与える影響を吟味した。さらに、武器・軍需品・軍用物資調達を通じた軍事的な活動は両国にとってどのような政治的・経済的な意義を有していたかを詳しく検討するとともに、交渉現場における日露両国の文武官の関わり合いに注目しながら、相互受容の在り方やその特色をより詳しく把握できた。この研究プロジェクトのおかげで、日本語、英語、ロシア語でいくつかの学術論文等を発表することによって、日露関係史や国際関係史の研究に貢献した。

研究成果の概要(英文)：Thanks to this research project the applicant, using voluminous historical sources of Russian, Japanese, American and British archives, managed to clarify the course of Russo-Japanese military cooperation during the First World War and to examine in detail an influence of military factor on both foreign policies of 'Great Powers' and international politics in general. The research demonstrated political and economic meaning of armaments purchasing/selling activities for Russia and Japan, and investigated various issues relating to the societal and personal relationships between Russians and Japanese people, characteristic features of their mutual perception. The results of this research project, which undoubtedly deepens our understanding of this 'imperialistic epoch', have been presented in several publications in Japanese, English and Russian.

研究分野：国際関係史

キーワード：第一次世界大戦 国際関係 日露関係 軍事協力 対外政策 帝国主義

1. 研究開始当初の背景

2001年以降、申請者は19世紀後半～20世紀初頭の日露関係を各方面から継続的に研究しており、そのなかで、特に第一次世界大戦期の両国間関係に注目した。本研究プロジェクトを開始するまでは、戦時中の日露外交関係や両国の世論の動向を具体的に検討できたが、大戦期の状況に欠かせない両国間関係の軍事的な次元が十分に解明されていないことを痛感して、近づきつつあった第一次大戦100周年記念という歴史的な道標をきっかけに、歴史学のなかで空白となっている両国の軍事協力の内容を総括的に検討することにした。

2. 研究の目的

第一次世界大戦期において日露間に顕在化した特殊な軍事協力関係を具体的かつ実証的に検討することによって、両国間関係史におけるユニークな《戦略的なパートナーシップ》の政治的・経済的な意義を明らかにするとともに、《帝国主義時代》における両国の社会政治的な発展および同時代の世界体制の特徴を浮き彫りにする。

3. 研究の方法

本研究は典型的な歴史学的研究方法に基づいて実施されてきた。すなわち、日露英米諸国の文書館に保存されている大量の一次資料の発掘を行い、日露軍事関係に関わる貴重な史料を選定・整理してから、これらを比較史的な観点から検討・分析することによって、上記の研究課題を解決しようとした。

具体的には、スタンフォード大学フーバー研究所文書館 (Hoover Institution Archives, Stanford University)、ロシア国立軍事史資料館 (Russian State Archive of Military History - RGVIA)、ロシア連邦国立公文書館 (State Archive of the Russian Federation - GARF)、ロシア防衛省砲兵・工兵・通信兵隊軍事史博物館資料館 (Archive of the Artillery, Engineer

and Signal Corps Military History Museum - AVIMAIViVS)、イギリスのユニヴァーシティ・カレッジ・ロンドン附属スラヴ東欧研究図書館 (University College London School of Slavonic and East European Studies Library - UCL SSEES)、英国国立公文書館 (the National Archives of the United Kingdom - TNA) という海外所蔵の豊富な史料コレクション、外交史料館、防衛省防衛研究所等の日本国内の貴重な歴史公文書を頼りにして研究を進めており、必要に応じて、各国の二次史料や関連文献の綿密な検討をも行った。以上の調査過程を通じて日露英諸国の史料を収集した後、これらを照らし合わせることによって個別的・総括的に評価・分析した。こうした比較史的方法を採用することによって、第一次世界大戦期の歴史現実の多面性、すなわち日露協力関係の複雑な内容と本質をより深く把握することができた。

4. 研究成果

4年間の研究を経て、第一次世界大戦期の《日露兵器同盟》の諸側面および同時代の国際政治の特徴を解明し、その実像をより詳細な形でつかめることができた。具体的に言えば、

(1) 日本におけるロシア政府の武器調達活動に関連する新資料群を発掘した結果、外交文書等の分析だけで分からない、両国間関係の《前衛》にみられる具体的な様子を詳細に再現した、

(2) 日本とロシアの文武官が接している東京、大阪、ペトログラード、ウラジオストークやハルビンといった《交渉の現場》に注目することによって、相互受容の在り方を明確化し、当時の日露関係の理解を一層深化させた、

(3) 日本経済界と対露戦時貿易という関連性について真剣に考え、大倉組等の活動を事例にしてその様子を解明することができ

たほか、

(4) 武器輸出のコンツェルンである泰平組合の対露武器商売に焦点を当て、日本の軍部との癒着関係をより詳しく解明することができた、

(5) 日本政界における意思決定過程の特徴をより明確に把握するとともに、対外政策における優先順位、国際政治への日本の関与度合いや日本社会構造そのものをよりよく理解できた、

(6) さらに、以上のようなことを踏まえ、ロシア政府の国外軍事発注総額における日本発注の割合、日本の対露輸出の総量・総額などをより正確に把握できたため、

(7) 両国にとって大戦期に顕在化した軍事協力の意義をより正確に見極められる条件を準備したとともに、

(8) 同時代の国際秩序における日露両国が占める位置をより明確に捉え、イギリス・フランスをはじめとした欧米列強が日露関係全体を如何に左右していたかを確認することができた。

以上のようなことは当時の日露関係や国際関係に対する従来の認識を大いに補正・補完しており、国内外の学術的な議論を深めていく効果があるに違いない。この期間内に日本語、ロシア語、英語で発表した申請者の研究成果は日露関係史の研究だけではなく、国際政治・社会史の研究そのものを刺激していると同時に、発展性が大いに発見されうると確信している。

客観的な支障や制限があって、ロシア連邦の各文書館に保存される貴重な関連資料の一部しか閲覧・検討することができなかったため、ロシアの海軍省・財務省や他の社会組織や経済界の関与を十分に解明できなかったことを遺憾に思うが、今後は同時代の《日露兵器同盟》の様子とその特徴を形容する研究書の完成に向けて、この研究プロジェクトで得られた成果の総括作業を促進させてい

く予定である。本研究プロジェクトは主に日露関係や国際関係の軍事的な側面に注目したが、こうした研究調査を通じて、経済的・財政的な次元のファクターを浮き彫りにしたため、外交・軍事・経済・世論といった諸分野を跨った学際的な研究への道が開かれたと確信している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計5件)

(1) パールイシェフ、エドワルド「1914~18年の《欧州大戦》と大倉組の《対露時局商売》」『軍事史学』、第50巻、第3・4合併号(『第一次世界大戦とその影響』)(軍事史学会編、2015年3月) 399-416頁(査読あり)。

(2) パールイシェフ、エドワルド「帝政ロシアと第一次世界大戦——《第二次祖国戦争》および1917年革命の歴史的意義を考え直す」『ロシア・ユーラシアの経済と社会』第984巻(ユーラシア研究所、2014年8月) 2-16頁(査読なし)。

(3) Барышев Э. А. Заготовительная деятельность Главного артиллерийского управления в Японии во время Первой мировой войны (1914–1917) (「第一次世界大戦期におけるロシア陸軍省砲兵本部の在日調達活動(1914~1917年)」) Война и оружие. Новые исследования и материалы: Труды Пятой Международной научно-практической конференции 14-16 мая 2014 г. Ч. I. (『戦争と武器：新しい研究と資料——2014年5月14~16日に開催された第5回国際学会議論文集』) 第1巻(サントペテルブルグ、2014年5月) 129-140頁(査読なし)。

<http://forum.artillery-museum.ru/assets/files/conf-2014-1.pdf>

(4) Eduard Baryshev, The Issue of Armaments Supply in Russo-Japanese Relations during the First World War (August 1914 – March 1917), *Shimane Journal of North East Asian Research*, No 25 (Institute for North East Asian Research, University of Shimane, March 2014), pp. 1-35(査読あり)
http://hamada.u-shimane.ac.jp/research/organization/near/41kenkyu/kenkyu25.data/hokutu25_p001-035.pdf

(5) パールィシエフ、エドワルド「第一次世界大戦期の《日露兵器同盟》とロシア軍人たちの《見えない戦い》——ロシア陸軍省砲兵本部の在日武器軍需品調達体制を中心に」『ロシア史研究』第93号(2013年11月) 25-46頁(査読あり)

[学会発表](計4件)

(1) パールィシエフ、エドワルド「第一次世界大戦と日本外交 《日露接近》の舞台裏」東アジア近代史学会、2015年10月24日(駒沢大学、東京都世田谷区)

(2) Барышев Э. А. Заготовительная деятельность Главного артиллерийского управления в Японии во время Первой мировой войны (1914–1917) (「第一次世界大戦期におけるロシア陸軍省砲兵本部の在日調達活動(1914～1917年)」) Война и оружие. Новые исследования и материалы: Пятая Международная научно-практическая конференция 14-16 мая 2014 г. (戦争と武器:新しい研究と資料—第5回国際学術会議) 2014年5月14～16日(サンクトペテルブルグ(ロシア連邦)砲兵・工兵および通信兵軍事史博物館)

(3) パールィシエフ、エドワルド「第一次世界大戦期の《日露兵器同盟》とロシア軍人たち」来日ロシア人研究会、2013年12月7日(青山学院大学、東京都渋谷区)

(4) Eduard Baryshev, The Russo-Japanese Partnership during the First World War (August 1914 – March 1917), The Fifth East Asian Conference on Slavic Eurasian Studies “1913 – 2013 for Eurasia: A Great Experiment or a Lost Century”, August 9-10, 2013 (Osaka University of Economics and Law、大阪府八尾市).

[図書](計1件)

(1) パールィシエフ、エドワルド『日露皇室外交 1916年の大公訪日』群像社、2016年4月、112頁。

[その他](計2件)

(1) Барышев Э. А. Заграничная заготовительная деятельность Главного Артиллерийского Управления во время Первой мировой войны (1914–1917 гг.) и ее уроки (「第一次世界大戦期におけるロシア陸軍省砲兵本部の国外調達活動(1914～1917年)とその諸教訓」)// Наука и техника: Вопросы истории и теории. Материалы XXXV международной годичной конференции Санкт-Петербургского отделения Российского национального комитета по истории и философии науки и техники РАН «Наука и техника в Первую мировую войну» (24-28 ноября 2014 г.). Вып. XXX.(『科学と技術 歴史および理論の諸問題、国際学術会議「第一次世界大戦期における科学と技術」(2014年11月24～28日)資料集』)(サンクトペテルブルグ、2014年12月) 258-259頁。

(2) Eduard Baryshev, Russo-Japanese Relations, 1905-1917: From Enemies to Allies. *Routledge Studies in Modern History of Asia*, 72. By Peter Berton. *Pacific Affairs*, Vol. 87, No. 1 (March 2014), pp. 159-161 (書評)

6 . 研究組織

(1)研究代表者

バーリシェフ エドワルド (BARYSHEV、
Eduard)

筑波大学・図書館情報メディア系・助教

研究者番号 : 00581125